

## R元年度第1回幡多地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和元年8月30日（金） 14：30～17：00

場所：宿毛市宿毛文教センター 1階 多目的ホール

出席：委員27名中、24名が出席（代理出席4名含む）

議事：（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）幡多地域アクションプラン 実行3年半の取り組みの総括について

- 1）実行3年半の取り組みの成果等
- 2）実行3年半の取り組みの評価及び課題

（3）最近の動きについて

- 1）四万十市中心商店街のにぎわい拠点づくり
- 2）竜串海洋観光クラスター形成の取り組み
- 3）宿毛市イチゴ・柑橘成長プロジェクト
- 4）黒潮町スポーツツーリズムと集落活動センターのビジネス化

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）  
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）幡多地域アクションプラン 実行3年半の取り組みの総括について

（アクションプラン全体について）

（程岡委員）

土佐清水市のメジカの加工施設及び商品づくりや竜串エリアの観光は開発半ばの段階。施設稼働後、数値が伸びてくると期待している。また、竜串への観光客をどう市街地にまで取り込むかが今後の課題である。

さらに、四万十市西土佐の四万十牛をもっとPRして欲しい。例えば、謝肉祭を開くなど。

（浜田委員）

県下の産業の底上げの効果は出ている。従来どおり取り組みを進めてもらいたい。

（中脇委員）

高い実績をさらに伸ばしていくには、事業者同士の連携が必要。宗田節、ぶしゅかんなど良いものを県民みんなに知ってもらおうといった底上げをお願いしたい。

（武政委員）

評価が低い、成果の出ていない事業者へのフォローが必要である。

（立田委員）

A評価の説明が多いので、B評価や課題があるところへ焦点を当てたい。すでに自立できているところもあると見受けるが、B評価をどうしていくか議論すべき。

(浦尻委員)

水産分野としての要望は人材不足に対する支援。投資して生産性をあげる。次は一次産業全体に人材の確保が必要で、外国人留学生を育成するための組織を幡多に1つ作ってもらいたい。

(成田委員)

目標を達成できていない案件の検証をしっかりと行ってもらいたい。

(松村地域産業振興監)

B評価の地域アクションプランについては、年末にかけて個々の案件の見直しを行い、目標未達の原因や費用対効果に見合う実行体制ができているか、設定目標が適切であったかなどを検証していく。

人材不足対策について、外国人労働力の活用と移住・Uターンなど外からいかに人材を呼び込むか、帰ってきたいと思える経済環境を作っていくことが大事。AI、IoT、Society5.0の視点も入れ、幡多で生活できる経済的な環境、地域産業の魅力を知ってもらう取り組みが必要である。

次期計画策定に向け、市町村の方とも一緒に今後の見直しを含め全地域アクションプランを見直す。

(No.38 幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大)

(小松(孝)委員)

幡多には多くのスポーツ施設があり、黒潮町はスポーツツーリズムの推進により地域の活性化につながってきているが、こういった取り組みを県全体で進めてもらいたい。幡多にも室戸のような雨天練習場の設備が欲しい。豊かな自然を売りにするだけでは勝てない。

(泥谷委員)

総括をきれいにまとめており、課題把握もできていると感じた。竜串エリアでは、開発が進む西エリアと東エリアの一体感をどう出すかが今後の課題。ここを起爆剤にして幡多地域全体にどう波及させていくか考えたい。

(No.18 土佐清水メジカ関連産業再生プロジェクト)

(問可委員)

メジカの施設整備はありがたいが、漁獲高は上がっていないため、施設の稼働率が上がらない、といったことにはならないようにしたい。

(No.12 四万十川のスジアオノリ生産量アップの取り組み)

(宮崎委員)

B評価となっている。スジアオノリの事業化は難しい。要望としては、アオサノリも取り上げていただきたい。

(No.37 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進)

(小松(昭)委員)

ハード整備はできてきたが、それを生かすソフト面の取り組みを組織立てて、どこの部分を

誰が担うのか決める時期。例えば、コンベンションの支部を幡多に作るとか、幡多広域観光協議会の人員を増やすとか。人と予算が足りていない。

(西宮委員)

課題に対してきめ細かい対応をしてもらっている。「No.37 幡多広域における滞在型・体験型観光推進プロジェクト」は、幡多にとっては強みなのでここを磨いていくべき。具体的な推進について組織的な位置づけをし、職員を配置して具体的なメニューづくりを行って欲しい。それがインバウンドにもつながる。

(平井委員代理)

施設整備後、ソフト面をどうしていくかが課題。お金が落ちる仕組みをどう作るか。また、これまで様々な会議でされている議論を事務レベルで生かしてなかったのが、情報共有しながら幡多地域を観光周遊してもらえようような取り組みを進めたい。

(森田委員)

国の施策はインバウンドがメインになっているが、まだ外国人の観光客は少ないので、日本人向けの策がもっと必要である。補助事業は、町を通しての間接補助が多いが、県から事業者への直接補助の仕組みが必要だと感じる。

(松村地域産業振興監)

観光については、「高知・西南地域観光キャンペーン 楽しまん！はた博」以来入込数が伸びていないとの声を聞く。「志国高知 幕末維新博」の効果が薄かった。これからの「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」に取り組む。スポーツツーリズム関係では、対話と実行行脚でも雨天練習場の要望をいただいている。人工芝サッカーグラウンドを生かし、キャンプ場の利用拡大などを図っていく。幡多までどうやって人を呼び込むか、個人的な意見だが、高知空港から幡多まで無料バスを走らせ、そこからの二次交通を発展させるなど大胆な策を打ってもよいのではないかと。皆様とボトルネックを解消し、広域組織の体制強化を図りたい。

人材不足対策について、外国人労働力の活用と移住・Uターンなど外からいかに人材を呼び込むか、帰ってきたいと思える経済環境を作っていくことが大事。AI、IoT、Society5.0の視点も入れ、幡多で生活できる経済的な環境、地域産業の魅力を知ってもらう取り組みが必要である。

次期計画策定に向け、市町村の方とも一緒に今後の見通しを含め全地域アクションプランを見直す。

### (3) 最近の動きについて

(大西委員)

県から事業者への直接支援は、私も必要だと思っている。例えば、金融機関と県がファンドを作り、積極的に支援するなど。難しいとは思いますが、時代のスピードに合った事業化対応を目指す必要があるのではないかと。

(以上)